

第 30 回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会

プログラム (武蔵野大学有明キャンパス)

■ 2019 年 12 月 21 日 (土) (3 号館および 1 号館) ■

12:30～ 受付 (3 号館 3 階 3-301 教室)

13:00～ 開会式 (3 号館 3 階 3-301 教室)

司会 向山陽子 (武蔵野大学)

開会宣言 坂本 正 (第二言語習得研究会 会長)

開催校挨拶 欒 殿武 (グローバル学部学部長)

13:15～14:45 ≪基調講演≫ (3 号館 3 階 3-301 教室)

司会：石澤徹 (東京外国語大学)

例外なのか個人差なのか —第二言語習得研究における多様性の課題と提言—

岩崎典子 氏 (南山大学)

14:45～15:00 総会・事務局からの連絡

15:20～16:50 ≪口頭発表 1≫ (1 号館 2 階 1-207 教室)

司会：岩田夏穂 (東京大学)

15:20～15:50 接触場面におけるアメリカ人日本語学習者の合意形成談話の特徴
—提案に対する応答と意見一致を目指すやりとりに注目して—

久保亜希 (東京国際大学)

15:50～16:20 ヘッジ表現を伴う間接発話行為の理解
—中上級学習者を対象とした予備的研究—

堀田智子 (東北大学)

16:20～16:50 中国語を母語とする日本語学習者のターン交替形式の特徴
—日本語母語話者と比較して—

宮永愛子（山口大学）

15:20～16:50 ≪口頭発表 2≫（1号館 2階 1-208 教室）

司会：岩下真澄（活水女子大学）

15:20～15:50 上級日本語学習者が苦手な「名詞＋動詞」コロケーションの特徴
—中国語を母語とする日本語学習者の場合—

劉 瑞利（お茶の水女子大学大学院生）

15:50～16:20 中国人日本語学習者による「名詞＋動詞」コロケーションの習得
—タスク関与負荷仮説と想起回数の比較を中心に—

姚 新宇（東北大学大学院生）・菅谷奈津恵（東北大学）

16:20～16:50 中国人上級日本語学習者の日中通訳過程における記憶メカニズム
—作動記憶容量，通訳開始タイミング，呈示手がかりを操作した実験的検討—

王 金芝（広島大学大学院生）

（休憩）

17:00～18:00 ≪口頭発表 3≫（1号館 2階 1-207 教室）

司会：岩下真澄（活水女子大学）

17:00～17:30 文法項目の特性の観点から見た日本語の動詞過去形に対する処理
指導の効果

Garmaeva Olga（お茶の水女子大学大学院生）

17:30～18:00 日本語多読が読解速度に与える効果
—多読アセスメントからの検証—

朝倉郁子（横浜国立大学大学院生）

17:00～18:00 ≪口頭発表 4≫（1号館 2階 1-208 教室）

司会：石澤徹（東京外国語大学）

17:00～17:30 中国語母語話者による二字漢字語の受容

—語のタイプ，既知・未知と L2 能力に着目して—

陳 夢夏（一橋大学大学院生）

17:30～18:00 作文データに見る形式名詞コトの習得段階と課題

—中国語母語話者と韓国語母語話者による使用から—

趙 婷婷（筑波大学大学院生）・ネケロワ＝マリナ（筑波大学大学院生）

西内沙恵（筑波大学大学院生）

18:20～20:00 ≪懇親会≫（3号館 2階 ロハスカフェ）

司会：小山悟（九州大学）

■2019 年 12 月 22 日（日）（1号館および3号館）■

9:30～ 受付（3号館 3階 3-301 教室）

10:00～11:45 ≪ポスター発表≫（1号館 2階）

司会：高村めぐみ（愛知大学）

第1会場（1号館 2階 1-202 教室）

(1) 日本語学習者を対象とした動機づけ調整方略尺度の作成

山下順子（広島大学大学院生）

(2) 日本語学習者が経験する不安の対処法に関する考察

—適度なレベルと促進的作用に着目して—

會田篤敬（岩手大学）

(3) 日本語使用ネットワークの構築とモチベーションの変化

—オーストラリアの大学生の縦断的事例研究—

倉田尚美（モナシュ大学）

第2会場（1号館2階1-203教室）

(4) 事前プランニングは意見文の質を高めるか

西島絵里子（東京外国語大学）

(5) 階層的な概念地図による作文指導の効果 —ウズベク人日本語学習者を対象に—
アリモヴァ ディルショダ（横浜国立大学大学院生）

(6) 知識構成型ジグソー法を用いた日本語学習者の議論深化の効果
—学習者の個別性に注目して—

岡田千帆（横浜国立大学大学院生）

第3会場（1号館2階1-204教室）

(7) 依頼メールにおける中国人日本語学習者と日本人評価者の重点差異に関する一考察 —PAC分析の手法から—

叶 国青（横浜国立大学大学院生）

(8) 資料の有無による意見文の文章構造の比較 —台湾人上級学習者を対象に—
楊 明翰（東北大学大学院生）・菅谷 奈津恵（東北大学）

(9) 日本語学習者の読解における省略要素の復元
—復元における難易度のヒエラルキー—

田中麻美（ペンシルバニア州立大学）

10:00～10:30 幹事会（1号館13階会議室）

10:40～11:40 運営委員会（1号館2階1-205教室）

12:00～12:50 シンポジストミーティング（1号館13階会議室）

13:00～16:00 《シンポジウム》（3号館3階 3-301 教室）

多様化の時代に、SLA の研究手法を再考する
—「質」と「量」をつないでひらく、新しい試みを求めて—

コーディネーター：宇佐美 洋（東京大学）

なぜ「言葉」や「行為」が意味をもつのか
—第二言語習得研究における質的研究法の意義と課題—

八木真奈美（駿河台大学）

混合研究法—量と質の境界を超えて—

抱井尚子（青山学院大学）

習得研究の資料としての学習者コーパスの可能性と課題
—規模の制約と一般化の制約をめぐって—

石川慎一郎（神戸大学）

コメント

小柳かおる（上智大学）

16:00～16:10 閉会式（3号館3階 3-301 教室）

司会：宇佐美 洋（東京大学）

16:30～ クロージングパーティー（3号館3階 3-301 教室）

司会：岩田夏穂（東京大学）

※両日とも、食事・休憩に3号館1階のフードコートをご利用いただけます。